



ある日、かえつのエッチャンという

元気で活発なエッチャンは5歳の女の子がいました。



これは、そんなエッチャンの不思議な1日のお話です。

「みっちゃん。そろそろおきなさい。」

キッチンから朝ごはんのいいにおいをさせながらお母さんが言います。

みっちゃんというのはエッチちゃんのお姉ちゃんです。
年が離れていて、大学に通っています。

エッチちゃんはお母さんがお姉ちゃんを起こす声で起きます。
そして今日も…。

「あ～良く寝た～。

あれ？いつもよりベットが広いなあ。なんでだろう。」

そんなことを言いながら布団を抜け出すエツちゃん。

そのときでした。

「え！！」

ベットから床までの高さがとても高く、おりることができません。

かがみに映った自分の体を見て、ようやく体が小さくなっていることがわかったエツちゃん。

「...どうしよう。」

そこに、身支度を終えたお姉ちゃんが部屋に戻ってきました。

「おーい！ みっちゃん！」

どんなに叫んでもエツちゃんの声は、お姉ちゃんに届きません。

声をかけるのをあきらめたエツちゃんは、枕元に座りこんでしまいました。

次の瞬間、お姉ちゃんのバッグが目の前に現れたのです。

「あ！ そうだっ！！」

エッチちゃんはそう言って立ち上がり、

お姉ちゃんのバッグの中に隠れることにしました。

「いってきまーす」

なんとか家からでることに成功したエッチちゃん。

お姉ちゃんは大学へ向かいます。

少し経って、大学に到着しました。

「みっちゃんおはよー！」

「おはよー！」

『大学ってこんなところなんだ～』

エッチちゃんがそう思っていると、バッグは揺れるのをやめました。

「よし！今だ！！」

エッチちゃんはバッグからこっそり抜け出しました。

全速力で走っても、小さくなったエッチちゃんには1メートル進むのにも

とても時間がかかってしまいます。

「とにかく、この教室を出てみよう。」



エッチちゃんは必死になって教室から出ることに成功しました。

しかし、大変なのはこれからでした。

エッチちゃんが教室を出るところには、もうお昼近くになっていました。

お昼になり、たくさんの学生が教室から出てきます。

だれも小さくなったエッチちゃんに気付くはずがありません。

気をつけていないと踏まれてしまいます。

「わわわ————」

やっとのことで踏まれずに道の隅にたどりつくと、そこには...!!!



トカゲのガンちゃんがいたのです。

「おや？おまえは誰だ！！人間みたいな格好をしているけど」

「私はエッチャン。人間だよ。でも今朝起きたときから体が小さくなってたの。」

「そんな小さな人間がいるもんか！」

「私小さくなってから歩くのが大変でこまっているんだけど、なにかいい方法ない？」

もし、手伝ってくれるなら、あなたの好物をあげる！」

「ほんとか？それなら、お前の大きさが元に戻ったときにくれよ。」

そうすれば、好物をおなかいっぱい食べられるんだろ？」

「手伝ってくれるのね！ありがとう。好物ってなあに？」

「おれの好物はスイカだ。お前を背中に乗っけて運んでやるから

約束、やぶるなよ。」

「もちろん！スイカね。いっぱい食べさせてあげるから、楽しみにしててね。」

見た目はすごく怖かった
トカゲのがんちゃんだったが、

困っているえっちゃんを見て

「背中に乗りな☆」

と人がたくさんいて通ることができなかった道を
背中に乗せて運んでくれたのでした。

エッチャンを乗せたガンちゃんは、

道のすぐ脇にある川を流れ



食堂に連れて行ってくれるのでした。

エッチャンは

「ありがとう」

と、お礼を言い

ガンちゃんとお別れをしました。

そこで食堂に向かうと



ちょうどお昼の時間で美味しそうな匂いが広がっていて

朝から何も食べてないエッチちゃんは

お腹が減ったことと誰も知っている人がいない孤独とで

「うわ～～ん(;0;)」

と泣いてしまうのです。

すると・・・

その声を聞いた蜂のおじさんが



「どうしたんだい？」

と、優しく声をかけてくれました。

エッチちゃんは

「もうお家に帰りたいの(;_;)」

と話しました。

そうすると蜂のおじさんは

「それは困ったね。」

とやさしく話しかけ、

「おじさんが、お家まで連れって行ってあげるよ。」

と言い、お家まで運んでくれるのでした。

その道のりで泣き疲れて眠ってしまったえっちゃんに

蜂のおじさんは、またやさしい声で、

「お家に着いたよ、起きて、起きて...」

「えっちゃん、えっちゃん！起きなさい！」

「ん～？あれ？蜂のおじさん・・・？」

「蜂のおじさん？おじさんなんていないわよ。」

えっちゃんの小さな大冒険は、夢という形で終わるのでした。